

伊賀流忍法まちづくりの術

はじめに

上野市は、三重県の西端に位置し、かつての「伊賀の国」を構成する2市5町村のひとつ、人口6万人余りの市です。伊賀地域は、名阪国道、近鉄大阪線、JR関西本線など名古屋と大阪を結ぶ主要幹線上にあります。三重県は行政的には中部圏に属しますが、伊賀に降った雨は木津川に集められ、宇治川・桂川と合流し淀川となって大阪湾に流れ、伊賀

は歴史文化、人と情報の流れも関西と強い結びつきを持っています。

本年11月には上野市と5町村が合併し、人口10万人の「伊賀市」が誕生することになっています。

1 歴史的観光資源の宝庫

伊賀上野といえば「忍者」が定番になっていますが、世界的な詩人「松尾芭蕉」の生誕地、日本三大仇討ちのひとつ「鍵屋の辻」が



伊賀上野城

あり、その立役者「荒木又右衛門」の生誕地、能楽の祖「観阿弥」「世阿弥」の生誕地でもあります。また、江戸時代の初期藤堂高虎によって町割が施された城下町が戦災にもあわず古いたたずまいを残しておりますし、そのなかで芭蕉の「侘び」「寂び」に通じる伊賀焼や和菓子、伊賀組紐など伝統的産業が市民の生業として今に受け継がれています。

これら数多くの観光資源のなかから、上野市の先人は、情報収集の先駆者「忍者」の再登場を企て、新たに伊賀上野を情報発信する役目を与えたのです。

2 伊賀流忍者

「忍者の里」伊賀上野は、かつて政治と文化の中心であった奈良、京都から数十キロの距離にありながら四方を山に囲まれた複雑な地形と、東大寺などの荘園の発達で中央勢力の進出を許さず、小規模な豪族が割拠し一種の共和制ともいべき伊賀惣国一揆を結成していました。一帯を支配する者が存在せず、常に諸国の動静をうかがい、外には団結して戦い内では互いに競い合う必要から、地理的にも近い大峯山の修験道の武術を取り入れて形づくられたのが「伊賀流忍術」といわれています。忍者が最も活躍したのは戦国時代



で、戦いが拡大していくなかで情報収集や奇襲作戦のプロフェッショナルとして全国へと活躍の場を広げていきました。大名を討ち取ればその国を手に入れられる他国とは違う伊賀は、「天正伊賀の乱」により織田信長にせん滅され、やがて藤堂高虎の入国により忍者も政治体制に組み入れられ、天下泰平の世では徐々に活躍の場を失い、明治の幕開けとともに表舞台から姿を消していきました。

「音なく、匂いなく、知名なく、勇名もなし」

3 忍者まつり

伊賀流忍者は現代になって小説や映画・アニメなどで再び全国的に知られ、海外でも「NINJA」が国際語として通用するまでになりました。伊賀上野では観光の柱として忍者を据え、忍者屋敷を山中から上野公園に移築し、からくりやバーチャル忍者体験ができるよう整えてきました。しかし、観光客を迎え入れる箱モノ施設だけではいずれ飽きられ、発展性にも欠けます。そこで、忍者のイメージを従来の「影」の存在から、現代的な明るく身近で親しみやすいキャラクターとして発信しようと昭和54年から華やかな「忍者行列」をメインイベントとした「忍者まつり」を開催してきました。このパレードは市民参



加の形をとり毎年参加人数を加えながら平成6年まで16年間開催されました。

4 忍者まつりから NINJA フェスタへ

この忍者まつりを、時代に合わせてもっと積極的に伊賀上野を全国に発信する“まつり”にしようという気運が高まり、平成7年「忍者行列」から「忍者ダンス」のイベントへと大きく転換させ、名称も「伊賀上野 NINJA フェスタ」と改め展開しました。

忍者をモチーフにした「忍ジャーズダンス」は50人の市民ダンサーによって初披露され、現在に至るまでベイシック・スーパー・チャイルドの3バージョンで各地の様々なイベントで好評を得ています。この年、翌年度のステップアップのため忍ジャーズダンスと忍者をテーマとした創作ダンス「全国忍ジャーズダンスコンクール」への参加を広く呼びかけたところ、関係者の不安をよそに全国から18チームもの参加があり、平成12年には東京から九州まで40組ものチームが忍者としてダンスを競うまでに成長しました。現代の多様でモダンな忍者の姿を表現していただいた結果、忍者の新しい世界とさらなる可能性を全国へと発信することができたと感じています。

しかし、年を追うごとの参加者増は会場や日程上の制約を受けることになりイベントの目的のひとつである「まちおこし、市街地活性」の点でも問題が残る結果となりました。

5 市民とつくる NINJA フェスタ

平成13年、フェスタをより地域に根ざしたものとするため市民実行委員会方式へと変更し、新たな NINJA フェスタの形が模索されました。その結果新たなコンセプトを「街じゅう忍者だらけ」とし、市民が一致協力して忍者のまちを作り出すことになりました。そのため忍者衣装を大量に作成しフェスタ期間中は市役所、銀行、郵便局の窓口やホテル、商店の従業員が着用し、街では常に忍者と会えるように工夫し、一方、市議会では議場出席者全員が忍者衣装を着用する「忍者議会」が開催され、国内外のメディアに取り上げられるなど想像以上の反響をいただきました。

NINJA フェスタ期間以外でも、市民の方から県外のイベントで「伊賀をアピールしてくるから」とか「海外出張するから」とかで、忍者衣装を貸し出すケースが増えていますし、全国に先駆けて制定した健康づくり推進条例の一環として創作した「忍にん体操」の普及など、上野市の様々な施策や市民の活動に忍者が絡んでくるようになりました。

これは取りも直さず市民のアイデアと努力が大きな力となることの何よりの証だと思います。

6 市街地を垣根のないテーマパークに

平成13、14年は、4月の第1日曜日をメインに据え、イベントを集中しましたがその日以外は街に忍者が少ないよ、市街地をもっと

元気にとの市民スタッフからの声を受け、15年から市街地を垣根のないテーマパークにしようとして以下の内容で NINJA フェスタを展開しています。

- 4月1日から5月5日までの期間のロングラン
- 市民の手づくりイベントにしよう
- 三本柱でシンプルに

「まちなか忍びの者を捜せ」。屋根や看板の裏に忍者人形を隠し捜してもらう

「忍者変身処」の開設。幼児から大人まで忍者衣装の貸出

「まちかど忍者道場」の開設。期間中土日祝日には忍者の体験を空店舗で

今年の NINJA フェスタは、「忍者がいっぱい・忍者になれる伊賀上野」が多くのメディアに注目していただき、口コミでも広がったようで、期間中忍者に変身された方が4,200人を超え、特に連休中の市街地は色とりどりの衣装をまとった忍者で溢れることとなりました。忍者になった人たちはもちろん、変身処や道場のスタッフや街の人々も笑顔笑顔の街になりました。

既設の観光施設である伊賀流忍者博物館や上野城にも数多く忍者に変身して行かれたようで、フェスタ期間中前年比3割増の入館者

を迎えることが出来ました。

7 忍者は伊賀上野の宝物

「忍者」は先人が伊賀上野に残してくれた大きな宝物であり、これを今に活かして伊賀上野の魅力を高めることが私たちの使命だと感じています。それには市民全員が忍者を愛し誇りを持つことが必要不可欠であり、年に一度の NINJA フェスタは「忍者は伊賀の宝物」を再認識するための大きな役割を担っていると考えています。フェスタを通して「忍者」と「城下町伊賀上野」の良さをまるごと体感していただき、全国、そして世界の人々との交流が深まり、伊賀上野が光り輝くことを願っています。

皆さんもぜひ NINJA フェスタに参加いただき、忍者と伊賀上野の魅力を味わって下さい。

